



**WoodyValleyパラグライダーハーネスは3年間保証付きです！！**

ウディーバレーハーネスについてカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様に、3年間保証をさせていただきます。

**保証内容**

- \* 通常使用による保証期間 : 3年
- \* クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間 : 1年  
(パーツ代や交換品については実費となります)

**保障対象外パーツ** (下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。)

- \* ポッドハーネスのつま先部分 (地面との摩耗部分)
- \* ネオブレンゴム部分
- \* ジッパー
- \* 超軽量ポッドハーネス X-Alps の頭部インフレーション部分
- \* ハーネス本体以外の部品 (カラビナ・プロテクション・成形用板・フットバー・座板 等)

修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。



flight since 1977

**Sports Opa Kite**

(株)スポーツオーパカイト

東京:

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24-15

TEL: 03-3291-0802

<http://www.opa.co.jp/>

メンテナンス部: 〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900

〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900

TEL: 0299-44-3642 FAX: 0299-44-3939

email: [itajiki@opa.co.jp](mailto:itajiki@opa.co.jp)

## THANK YOU !

この度はウッディバレー社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容が記載されていますので、よく読んでください。特に最重要の2点について御注意ください。

### 緊急パラシュートの装填

あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは2日後に起きる事もあり得るし2年後かも知れません。いざと言うときに確実に役立つように取り扱ひましょう。

### ハーネスの調整

ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことができます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

### セーフティー ノート~安全に関するお知らせ

ウッディバレー社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。ウッディバレー社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、ウッディバレー社およびウッディバレー社製品取り扱い店は、ウッディバレー社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。ウッディバレー社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

Woody Valley

#### 危険・警告

- 1) 安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。
- 2) 本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。
- 3) 本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。

# INDEX

<b>1 . 一般情報</b> .....	<b>4</b>
1 . 1 コンセプト .....	4
1 . 2 プロテクションシステムと安全性 .....	4
1 . 3 SOSラベル .....	4
<b>2 . ハーネス使用の前に</b> .....	<b>5</b>
2 . 1 緊急パラシュート .....	5
2 . 1 . 1 レスキューハンドルのデプロイメントバッグへの取り付け .....	5
2 . 1 . 2 緊急パラシュートのハーネスへの取り付け .....	5
2 . 1 . 3 緊急パラシュートの装填 .....	7
2 . 1 . 4 緊急パラシュートの開傘操作 .....	8
2 . 2 ハーネス調整 .....	9
2 . 2 . 1 背中と座板の調整 .....	9
2 . 2 . 2 肩ベルトの調整 .....	10
2 . 2 . 3 胸ベルトの調整 .....	10
2 . 2 . 4 脚ベルトの調整 .....	10
2 . 2 . 5 スタビライザー .....	11
<b>3 . ワニでの飛行</b> .....	<b>11</b>
3 . 1 プレフライトチェック .....	11
3 . 2 ポケット .....	11
3 . 3 キャメルバッグ .....	12
3 . 4 タンデム .....	13
3 . 5 水上でのフライト .....	13
3 . 6 トーイング .....	13
3 . 7 ランディング .....	13
3 . 8 ハーネスの廃棄 .....	13
3 . 9 自然環境における活動への注意 .....	13
<b>4 . ハーネスの収納</b> .....	<b>13</b>
<b>5 . 特徴とオプション装備の取り付け</b> .....	<b>15</b>
5 . 1 スピードシステムの取り付けと調整 .....	15
5 . 2 リラックスバー...リラックスバーリラックスバー .....	15
5 . 3 レッグカバー .....	15
5 . 4 クイックリリースカラビナ .....	15
<b>6 . メンテナンスと修理</b> .....	<b>16</b>
<b>7 . テクニカルデータ</b> .....	<b>16</b>

## 1. 一般情報

この装備に含まれるのは：

- ハーネス
- ポリプロピレン座板（前方は柔軟部分）
- カラビナ2個
- 緊急パラシュート開傘ハンドル
- 緊急パラシュートコンテナ閉鎖用バンジーループ（予備2個）

オプション：  
スピードバー  
リラックスバー  
レッグカバー  
クイックカラビナ

### 1.1 コンセプト

ワニは、最高の軽量化を目指して設計され、ウッディーバレー社のテストで最高の衝撃吸収性能を示す、自立型エアバッグ付きの最新リバーシブルハーネスです。そのベルトシステムの配置は、運動性と安定性を高い次元で融合させた実績あるハスカハーネスと同じものです。

ワニはハーネスとしてだけでなく、バックパックとしても大きく発展しており、新しいリバーシブルハーネスのコンセプトを確立しました。この新コンセプトによる最高の設計によって、ハーネスとしてもバックパックとしても、その機能、見た目の美しさともに大幅な向上を達成しました。

細微にいたる入念な設計は、最近の小さなパッキングサイズの緊急パラシュートコンテナも優しく保持できる容量調整システムを付加し、ブライダルカバーにもジッパーを採用しています。

### 1.2 プロテクションシステムと安全性

ワニは、ハスカによって確立された自立型（自己膨張型）セルフインフレイティングエアバッグという新システムを採用しています。このセルフインフレイティングシステムの新機軸は、スチール製スプリングの使用にあります。これはスプリング自体が衝撃を吸収するのではなく、いつでもエアバッグが衝撃を吸収できるようにエアバッグを広げておくというものです。このようにして、テイクオフで走り出す前であっても100%の衝撃吸収力があり、リュックサックに収納する為にハーネスをたたむまで、飛行中もずっとこの状態が保たれるのです。またスプリングであるためにエアバッグの安定した形状が保たれ、いかなる湿度、気温に対しても、あるいはリュックサック内に長いあいだ収納したままであっても、長期間にわたって性能を維持する事が出来ます。軽量と収納時体積の小ささも、スプリングによるセルフインフレイティングシステムの2大長所でしょう。このシステムこそ、エアバッグとムースタイプという2つのプロテクションシステムの長所を併せ持つものなのです。

足ベルト閉め忘れによるパイロットのハーネスからの脱落を防ぐうえでその効果が大いに認められている2つのセーフティーシステム、ゲットアップ、あるいはTロックのどちらでも選択する事ができます。

### 1.3 SOSラベル

赤字に白文字のとても目立つSOSラベルが、右肩ベルトのパッドのポケットに入っています。このSOSラベルの裏側に、事故の際に救急隊員に必要なと思われるパイロットの情報を記入しておくことができます。



## 2. ハーネス使用の前に

ワニは、そのパイロットを担当しているインストラクターなどの、認証を受けているパラグライダーの専門家によって組み立てられなければなりません。特に緊急パラシュートのハーネスへの装填は、正しく行われるよう、十分な技能と注意が要求されます。適切なパラシュートの装填を受けた後にのみ、ハーネスの調整を行ってください。

### 2.1 緊急パラシュート

緊急パラシュートのコンテナは座板の下のハーネスの前部にあります。このコンテナの容量は調節でき、幅広いサイズの緊急パラシュートに対応しています。緊急パラシュートをハーネスに装填する際は、最初に緊急パラシュートのブライダルをハーネスのブライダルへ取り付けてから装填して下さい。ハーネスのブライダルは2箇所パイロットの肩の高さで接続されており、このことで開傘時の荷重配分とパイロットの着地姿勢を確実にして、着地時に負傷する可能性を最小限に減らしています。このコンテナのブライダルのパラシュート側のエンドは、コーデュラ500生地のカバーで補強された赤色の大きなループになっています。このループの端にはベルクロがついていて、緊急パラシュート側のブライダルとの結束が緩まないよう保持してくれます。

#### 2.1.1 レスキューハンドルのデプロイメントバッグへの取り付け

ワニには、緊急パラシュート引き出し用の専用ハンドルが付属しています。このハンドルの識別番号は6番で、そのほかのハンドルの使用は出来ません。ハンドルについている黒いループをデプロイメントバッグのループに通し、この黒いループの中にハンドル本体を通してからしっかり引き絞って、ハンドルを取り付けます。緊急パラシュートの引き出しを確実にするためには、緊急パラシュートの中心よりも引き出し口側の中心線上の位置でハンドルのループをデプロイメントバッグへ取り付けてください。もしも使用するデプロイメントバッグの取り付けループが適切な位置になかったら、緊急パラシュートをお買い求めになった販売店と相談してください。



#### 2.1.2 緊急パラシュートのハーネスへの取り付け

緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、3つの方法があります。

##### 接続方法その1

2,400kg以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナ（ラピッドリンク）を使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向かないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないように固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次に述べる方法よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。



### 接続方法その2

まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダル端の大きなループの中にくぐらせていき、2つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。そのうえで、結束部が緩んでこないよう、ハーネス側のブライダルについているベルクロで結束部を縛ってください。



### 接続方法その3

もしご使用の緊急パラシュートが操縦可能なもので2本ブライダルをもっているか、いずれにしても2本ライザーブライダルを装備しているものでしたら、肩ベルトの近くにあるハーネス側のブライダルの付根にある2つのループへ接続することが出来ます。この場合、ハーネス側のブライダルは、使用しないので、折りたたんで2本のゴムバンドで縛り、パイロットの首の後ろにあるカバーの下に収納してください。



2箇所のブライダル接続にはそれぞれ1,400kg以上の破壊強度を持つねじロック型カラビナ(ラピッドリンク)を使用してください。また、緊急パラシュートのブライダルの長さが、開傘作業での緊急パラシュート引き出し時にも十分な長さを持ち、パラシュートをコンテナから引き出すさいにパラシュート本体が先にデプロイメントバッグから引き出されることがないか、をチェックすることが重要です。

### 重要：

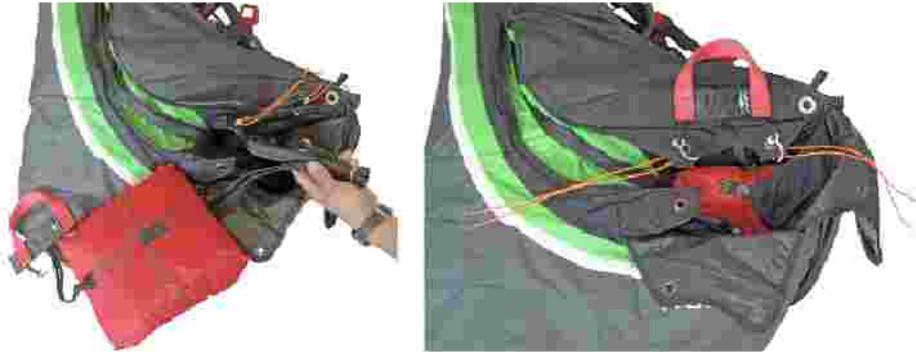
横方向の異常な荷重負担を避けるため、どちらか1つのループだけでなく、ブライダルは必ず肩ベルトの2つのループへそれぞれ接続してください。また、ブライダルコンテナの中に物品を収納しないで下さい。



### 2.1.3 緊急パラシュートの装填

緊急パラシュートをハーネスのコンテナへ装填するさいは、引き出しハンドルが外から見えていて、ハンドルが外側を向き、デプロイメントバッグのハンドルへの取り付けループが上側にくるようにしてください。最近の小さなパッキングサイズのパラシュートでコンテナ容量調節システムを使用する場合は、パラシュート本体が座板の下でコンテナ容量調節用の柔軟布カバーの中に適切に位置することを確認して下さい。従来型の大きなパッキングサイズのパラシュートでは無理にこのコンテナ容量調節システムを使用しないで下さい。

ハンドル基部左右をハーネスのスリットへ入れてください。後の作業が楽になるように、セーフティーピンどめ用の付属のバンジーループの中に細いヒモ（パラグライダーのボトムラインなど）を通しておきます。このヒモとバンジーループをハーネスパラシュートコンテナのフラップのハトメ穴で一番小さなものに通してください。このハトメ穴はハンドルフラップの下にある2本の短いベルトフラップに開いていて、このベルトフラップの裏側はバンジーループ保持のカバーになっています。



コンテナ容量調節システムを使用する場合、2枚ある柔軟布カバーの先に細いベルトが付いていて、それぞれハトメ穴が2つ開いています。装填するパラシュートのパッキングサイズに合わせて使用するハトメ穴の位置を変えて、コンテナ容量を調節します。小さなパラシュートでは細ベルトの付根側のハトメ穴を、大きなパラシュートでは細ベルト先端側のハトメ穴を使用します。また、柔軟布カバーは交差させてパラシュートをしっかり包み込む形で使用します。パッキングサイズの大きな従来型のパラシュートでは、2枚ある柔軟布カバーは使用しません。



ブライダルカバーのジッパーをいったん右へ閉め切ってから左へ20cm開けて下さい。それからいろいろあるフラップを、以下の写真の順番で閉じていってください。この作業の際にジッパーが開いてこないよう注意してください。





ハンドルについているメタルピンを、透明カバーの下のハトメ穴から引き出したバンジーループの中へ差し込みます。メタルピンが差さったら、バンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。（ヒモをメタルピンの下側に回してから抜くと良いでしょう。）重なったフラップの下にあるジッパーが余計に開いてきていないことを確認して下さい。また、ジッパースライダーが左の肩ベルトの後ろのカバーの下に入っていて、この上方ではジッパーが完全に閉じている事を確認してください。

**重要：**

緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

**2.1.4 緊急パラシュート開傘操作**

緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。



緊急時の開傘手順は以下の通りです。

- ・緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴む。
- ・外側に向かってハンドルを引き、ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出す。
- ・障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートをパイロットおよびパラグライダーから離れた方向へ投げる。
- ・緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにするために、少なくとも1本のDライン、あるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを引き込む。
- ・着地時には、負傷のリスクを出来るだけ減らすために、体を起こしておき、PLF（5点接地パラシュートランディングフォール）が行なえるようにする。

**2.1.5 対応できる緊急パラシュートサイズ**

一般に、従来からのかさ高いパラシュートは最近のコンパクトなハーネスからは引き出しにくいものです。サイズごとに異なるワニの認定容量は、 M：3～6L L：3～6.5L XL：3～7L

## 2.2 ハーネス調整

ワニには多くの調整方法が設定されていて、最適のポジションに調整できるようになっています。この調整にはそれほど多くの時間はかかりませんが、フライト中の快適さは大きく変わってきます。

ワニは出荷時に標準的な体型の調整がすでに施されていますが、パイロットの身長へ対応する調整は行っていません。そこで、初飛行の前に他の調整はそのまま高さの調整だけを行う事をお勧めします。他の調整についてはほとんどのパイロットにとって満足できるものである事がわかっています。  
なお、全ての調整ベルトに赤い印が付けられていて、これら他の調整を行う際に、いつでもメーカー設定値に戻せるようになっています。



調整作業は、必ず緊急パラシュートを装填してから行なってください。そして、最適の調整を得るためには、適切なシミュレーターからぶら下がり、飛行時と同じ装備・収納品を再現して飛行時と同じ条件・ポジションでチェックしてください。

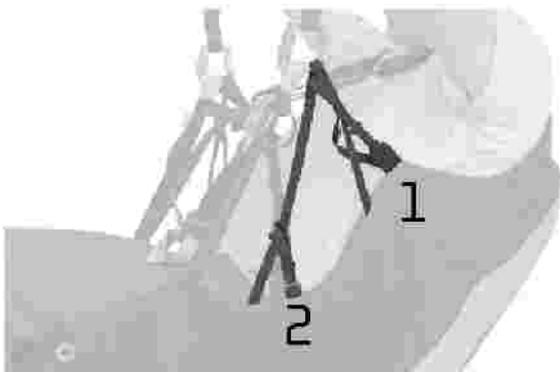
### 2.2.1 背中中の角度調整と座板の深さ調整

背板調整	2.2.1 参照
座板の深さ調整	2.2.1 参照
肩ベルト調整	2.2.2 参照
胸ベルト調整	2.2.3 参照
脚ベルト調整	2.2.4 参照



下記の写真で示したとおり、背中中の角度調整ベルトと座板の深さ調整ベルトはそれぞれさらに分かれてハーネスを支えています。垂直方向に対して上体をどれだけ後へ傾けさせるかの角度調整は、**1**で行います。では、脚と背中との間の角度（シートの深さ）を調整でき、腰椎と座板への荷重配分を変えて最適の居住性が得られます。

調整に当たっては、まず **2** で最も快適なポジションに調整し、それから **1** を調整してください。



### 2.2.2 肩ベルトの調整

肩ベルト調整によってハーネスをパイロットの身長に合わせていきます。この調整バックルは下の方の、座板の後端近くにありますが、肩ベルトはパイロット上体の重さの一部も支え、居住性に寄与しています。前記の背中と座板の正しい調整が得られたと判断できてから、この肩ベルトの調整を行い、肩ベルトがパイロットの肩へピッタリ当たっていて、あたり方が強過ぎたり緩過ぎたりしないようにしてください。



### 2.2.3 胸ベルトの調整

胸ベルトで2つのカラビナ間の距離を調整します。調整幅は37～49.5cmです。ワニでの初飛行の際は胸ベルトを一番短めにしておく事をお勧めします。その後フライトを繰り返しながら少しずつ調整して好みのポジションを探してください。胸ストラップが短く、きついほど安定性が高くなります。カラビナ間の距離を広げ過ぎてもパラグライダーの操作性は向上しません。また、狭くし過ぎた場合、非対称つぶれからのツイスト傾向を悪化させる恐れがあります。

肩ベルトの端には小さなクリップが付いた伸縮ベルトがあり、離陸走行時に肩ベルトがパイロットの肩から外れるのを防げます。またベルトの接続クリップが、緊急時に役立つ便利なホイッスルになっています。



### 2.2.4 脚ベルトの調整

#### ゲットアップシステム：

ゲットアップシステムのために脚ベルトが比較的高い位置へ取り付けられているおかげで、パイロットにとって太股の動きに大きな自由が得られました。通常はメーカー出荷のオリジナル調整で問題ないはずですが、もしシミュレーターでチェックしてみて手を使わずに離陸時のシッティングポジションへの移行ができない場合は、座板の角度をチェックしてください。（前記「2.2.1 背中中の角度調整と座板の深さ調整」の調整ポイントの調整）それでも解決できない場合は脚ベルトを短く調整します。これは、胸ベルト中央の下にあるダブルウインドーバックルでベルトの長さを変えて行います。

#### Tロックシステム：

基本的な考え方はゲットアップシステムの場合と同じですが、ベルトの長さ調整のダブルウインドーバックルは足ベルトの取り付けバックルにあります。

## 2.2.5 スタビライザー

この小さな、しかし重要な調整によって、スピードバーを踏み込んだ時に背中に過大なねじれが生じる事を防ぎ、ハーネスを安定させる事が出来ます。その作動原理はとても簡単で、スピードバーを踏み込んだ時にこの小さなプラスチックバックルが、肩ベルトが胸ベルトの中に滑り込んでいる箇所ブロックし、ハーネスのベルト構造全体の剛性を高め、ハーネス全体の安定性を向上させるのです。スタビライザーは工場出荷時に正しく調整されています。



**重要:** 全ての調整は必ず左右均等に行ってください。

## 3. ワニでの飛行

### 3.1 プレフライトチェック

安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行なってください。

- ・全てのバックルが正しく閉まっているか。氷や雪などの障害物が挟まっていないか。必ず氷や雪を拭いてからバックルを閉めること。
- ・緊急パラシュートのハンドルが正しい位置にあり、セーフティーピンがしっかりと差し込まれているか。
- ・ポケットやジッパーが開いていないか。
- ・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。2個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。
- ・スピードバーがパラグライダーに正しく取り付けられているか。

### 3.2 ポケット

ハーネス状態のワニには大容量の背中コンテナがあり、輸送時のバックパック部が収納できるほか、衣類や給水キャメルバッグも収納できます。さらに2つのサイドポケットがあり、左のサイドポケットは柔軟メッシュ素材でできていて、中に使いやすい無線機ホルダーがあり、右のサイドポケットは柔軟ライクラ素材でできていてジッパーで閉じる事ができます。



バックパック状態でのワニにも、2つの大きな柔軟ライクラ素材のサイドポケットがあります。1つは伸縮式のストックの収納にご使用下さい。左右の腰ベルトも柔軟ライクラ素材のポケットになっていて、小物の収納ができます。さらにバッグの頂部もジッパー付ポケットになっています。



### 3.3 キャメルバッグ

ワニはハーネス状態でもバックパック状態でも、給水キャメルバッグ装備の機構を持っています。

ハーネス状態では、背中コンテナの中の専用コンテナポケットにキャメルバッグを入れ、背中コンテナの上部左側に開口している樹脂の星型穴から給水ホースを出し、写真のように左肩ベルトのライクラ製伸縮カバーの中を通して最後にゴムベルトの下へ通してください。



バックパック状態では、給水キャメルバッグをバックパックの中へ入れておいて、左右の肩ベルト上端の間にある専用の取り出し口からホースを出してください。「H<sub>2</sub>O」マークが目印です。



### 3.4 タンデム

ワニは、タンデムフライトのパASSEンジャー用に使用することができます。

### 3.5 水上でのフライト

水上でのフライトに関して、ワニで特に問題となる点はありませんが、いずれにしても着水は常に危険である事に違いはありません。水上を飛ぶ可能性がある場合は、適切なライフジャケットを使用してください。

### 3.6 トーイング

ワニはトーイングでの離陸に用いる事が出来ます。トーイングブライダルのリリースは必ず、カラビナに直接かけてカラビナの開閉ゲートがリリースとは逆の後ろ側を向いているようにしてください。詳細はトーイングリリース機材に付属の説明書を読むか各人のフライトエリアにいるトーイングの資格を持ったインストラクターにお聞きください。

### 3.7 ランディング

ランディングの前に座板から足をずらせて出して立ち上がり、スタンディングポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。高レベルのパッシブプロテクションとなるエアバッグバックプロテクションを装備しているとは言え、これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディングポジションをとっておくことは、アクティブセーフティの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブプロテクションに比べて、はるかに有効です。

### 3.8 ハーネスの廃棄

パラグライダーハーネスに使用されている素材には、正しい廃棄方法が求められています。一般ゴミとして廃棄する代わりにメーカーまでお戻しください。メーカー側で正しい廃棄処分を行います。

### 3.9 自然環境における活動への注意

スカイスポーツ活動において環境に配慮しましょう。勝手に許可されていない場所に立ち入ったり、ゴミで自然を汚したり、騒音を出したりしないよう、注意しましょう。

## 4. ハーネスの収納・パラグライダーの入れ方・リュックサックの使用

ハーネス状態からバックパック状態への変換は、まず背中コンテナのジッパーを完全に開き、背中コンテナ内にあるバックパック部分を大きく広げます。全体を上下逆にひっくり返し、座板をハーネスの背中部分へ向かって折りたたみ、その間にベルト類やバックル類を挟んでおきます。たたんであるパラグライダーをハーネスのエアバッグ部の上へ乗せます。



ハーネスの背中コンテナのカバー部分をパラグライダーの上へ引き出してから、バックパックコンテナのジッパーを閉じていきます。パラグライダーやバックパック本体の中の空気を抜くように軽く押ししていくとジッパーが楽に閉められます。



バックパックコンテナ上部には、ヘルメットや計器、衣類などなどの十分な収納スペースが残るはずです。全ての装備を収納してジッパーを閉じたのち、まだ余裕があるようなら、4本のサイドベルトを使って、バックパックをコンパクトに絞って下さい。収納されている内容物が固定されて揺れなくなり、搬送がより快適になります。肩ベルト上端にある小さな調整ベルトも同様の目的に使用できます。



バックパック状態からハーネス状態への変換も、ちょうどこの逆の手順で行い、バックパックコンテナ部がハーネスの背中コンテナ内に入るようにして下さい。

**注意：**

収納時に、エアバッグ部を形作るレキサン製の樹脂板に折れクセが付かないよう、十分に注意して下さい。パラグライダーを収納する時にレキサンが鋭く折れ曲がったり、曲がりクセがついたりすると、エアバッグの機能に支障が生じる可能性があります。



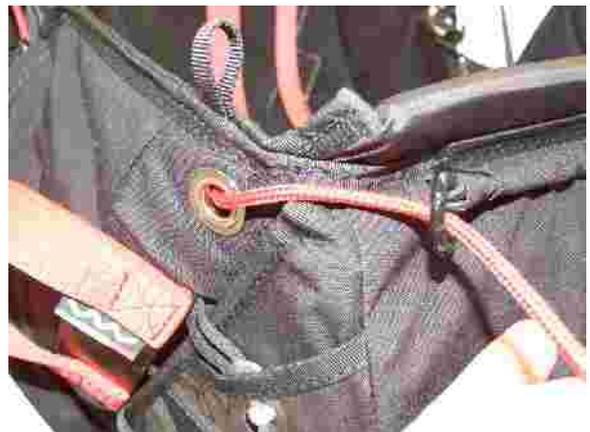
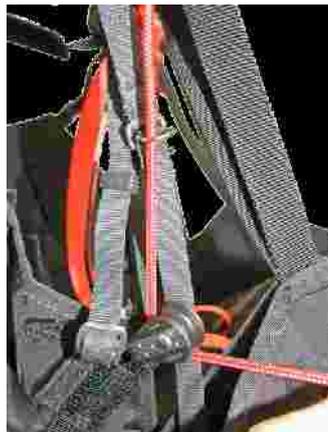
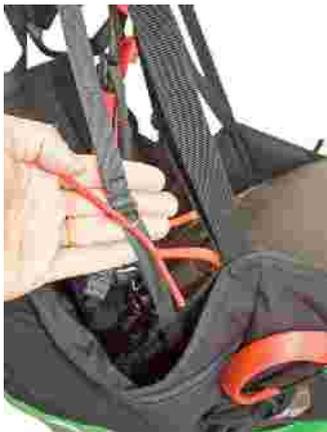
## 5 特徴とオプション装備の内容と取り付け

### 5.1 スピードシステムの取り付けと調整

最適なシッティングポジションに調整できたら、アクセレーターの調整を行いません。このハーネスは通常タイプのスピードシステムアクセレーターなら全て装着可能です。

座板の前にはスピードバーを保持するゴムヒモがあり、緊急パラシュート開傘時に緊急パラシュートハンドルがスピードシステムに絡むのを防いでいます。スピードバーのラインはまず座板の前のゴムヒモに付いているリングの中を通し、座板の前の角の近くにあるハトメ穴からハーネスの中に入り、そこから座板の後ろの角の近くにあるプリーを通して上へ伸ばして最後に伸縮ベルトに取り付けられた小さなサイドリングの中を通しておきます。このサイドリングのおかげで、スピードシステムラインがパラグライダーのライザーから外してあるときにハーネスの中に入ってしまうことを防いでいます。

スピードバーの調整を正確に行うには、シミュレーターにぶら下がってパラグライダーのライザーを接続し、他の人にライザーを持ち上げてもらって、スピードバーのラインの長さを調整してください。足を離れたときにフットレストがハーネス前部の下10cm以内にくるようにしてください。ヒモを短くし過ぎるとスピードシステムが常に引かれた状態になり、意図しないで飛行中に常にスピードシステムが作動してしまう恐れがあります。はじめのフライトではスピードバーをやや長めにしておいてフライトごとに少しずつ短くしていくのが安全です。また、調整の際は、左右均等に行うよう注意してください。



### 5.2 リラックスバー

すでに装着されているタイプ以外にも、全てのウディーバレー社製ハーネスにリラックスバーを後付け装備することが出来ます。リラックスバーがあれば、パイロットは脚を伸ばした状態で足をサポートに乗せてくつろぐことが出来ます。この飛行姿勢は昔からの脚を垂らしておく姿勢よりもずっと楽と思うパイロットも多いです。リラックスバーの取付けは、リラックスバー付属の取り扱い説明書をご覧ください。

### 5.3 レッグカバー

レッグカバーは比類ない快適性をもたらしてくれる、ウディーバレー社が独自に開発した製品です。専用の防水透湿生地製のカバーが寒さをしっかり防ぎ、空気抵抗の低減にも役立ちます。レッグカバーの取付けは、レッグカバー付属の取り扱い説明書をご覧ください。

### 5.4 クイックリリースカラビナ

ワニはクイックリリースカラビナを使用することが出来ます。正しい取り付け方については、クイックリリースカラビナ付属の使用説明書を参照してください。



## 6. メンテナンスと修理

衝撃が加わったとき、着陸あるいは離陸に失敗したとき、あるいは損傷や顕著な消耗が見受けられたときは、ハーネスを点検してください。また、ハーネスは2年に1度、販売者に点検してもらうことと、2年に1度メインカラビナを交換することをお勧めします。

ハーネスの不要な損耗・劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線（直射日光）が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。

パラグライダー機材は、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままで放置しないで下さい。ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスチックブラシや絞った雑巾で土を落として下さい。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させて下さい。ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。

もし緊急パラシュートが濡れた場合（着水など）は、必ずハーネスから取り出して乾燥させ、リパックしてからハーネスコンテナに収納しなおしてください。

ハーネスの修理や部品交換は、パイロットが行ってはならず、ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家のみが作業いたします。ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。

メンテナンス作業の要望でウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。高性能で軽量のハーネスを実現するために、ワニでは高級な素材を使用していますが、標準的なハーネスよりも軽量の素材を使用していますので、ワニの使用・収納の際は、常に細心の注意をお願いいたします。正しい使用によってハーネスは長持ちします。

皆様が、ワニによって素晴らしいフライトを楽しまれることを願います！

## 7. テクニカルデータ

座板からカラビナまでの距離	Size M: 43 cm - Size L: 45 cm - Size XL: 47 cm
カラビナ間の距離 (Get-up)	Size M: 37-48 cm - Size L: 37-48 cm - Size XL: 37-49,5 cm
カラビナ間の距離 (T-Lock)	Size M: 37-48 cm - Size L: 37-48 cm - Size XL: 37-48 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ (M)	33 x 30 x 34 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ (L)	35 x 32 x 36,5 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ (XL)	37 x 34 x 39 cm
カラビナ、パラシュートハンドルを含む本体重量	:Size M: 3,9 Kg - Size L: 4,15 Kg - Size XL: 4,4 Kg
プロテクション形式	セルフインフレーション エアバッグ
脚ベルト方式	Get-up / T-Lock
緊急パラシュートコンテナ	座板の下に容量調節可能な側方開放型コンテナ
荷重限界	120 daN

この取扱説明書に記載の内容には万全の正確を期していますが、記載内容はあくまで参考である事を御理解ください。この取扱説明書は予告なく変更されるものです。

ワニの最新の情報は、ウッディーバレー社のホームページ <http://www.woodyvalley.com>  
あるいは、(株)スポーツオーパカイトのホームページ <http://www.opa.co.jp> でチェックして下さい。

